



40代 男性 金融関係勤務

<小さい頃の様子>

- ・親が具体的に（自分の発達のこと）指摘を受けたかは確認していない。自分自身としては、何かに没頭しやすかった。授業中は教科書に絵を描いていたり、反対に集中しすぎたりして先生に怒られることがあった。

<診断のきっかけ>

- ・発達障害を疑ったきっかけは、学生時代から周囲と違うとは感じてきたが、社会人になって仕事をしていて周囲と仕事のスピード感が違う、遅いし周囲のミスがとてもしない（自分は多い）と気づいた。
- ・人間関係にも悩んだ。指摘はされなかったが、あとから聞くと陰口などを言われていたようで「あいつは知恵遅れ」といった言葉だったよう。それでいろいろと調べて発達障害の本に当たった。

<診断後のこと>

- ・検査（WAIS）を受けて、自閉スペクトラム症（ASD）傾向を医師から診断された。1回目のWAIS検査は5年前、しかし数値があいまいとのことで診断が出なかった。あらためて3年前に病院を変えて診断を受けた。
- ・診断を受けて心境の変化があった。受けて良かったと思う。客観的に自分の得意不得意が分かり、仕事の得意不得意の理解にもつなげられた。
- ・診断後に両親に話をした。母親は納得してくれた。父親は誰にでもあることという感じであった。
- ・診断後に職務は変更してもらい、働きやすくなった。
- ・診断後に上司にASD傾向と得意不得意を話した。その時に職務を変える前からサポートしてくれるようになった。診断書の提出は求められなかったが、自分からWAISの結果を見てもらった。
- ・会社では社員が年に1回保健師さんへの面談機会があり、保健師さんにASD傾向のことを話した。その時に、会社内でも他にも配慮を受けている人がいるらしいと知った。



- 
- ・生活上の苦手さは感じない。仕事上では、同じ職場の人との関係の難しさを感じる。意図の伝わりにくさ。10歳年上の方との関係が難しい。ASDの特性である「こうしましょう」からはずれることをされると、精神的に不安定になる。
 - ・病院は服薬がないため定期通院なし。何かあれば来て下さい、になっている。
 - ・支援を受ける時に嫌だったことは、自分からお願いすることが多いため、あまりない。
 - ・職場では身近な上司と同僚には障害をオープンにしているが、会社自体へはクローズに近い状況で働いている。

<当事者や家族へのメッセージ>

- ・当事者には自己分析と自己開示を大切にしてほしい。
- ・支援者には「こうあるべき」という価値観ではなく、当事者と話し合っ
て決めてほしい。